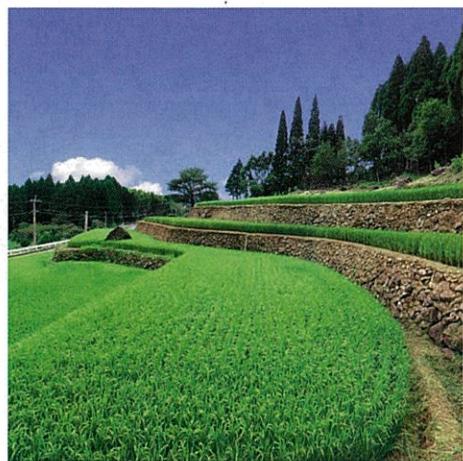
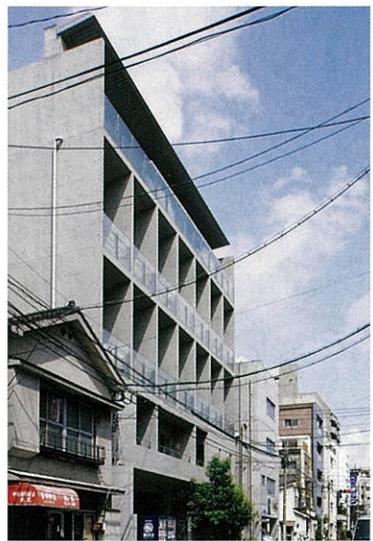


# 景観 2010 第1回 鹿児島市

2010 The Best of Kagoshima Landscape and Architecture Award

## まちづくり賞



## 景観まちづくり賞

2010 The Best of Kagoshima Landscape and Architecture Award



## ごあいさつ

鹿児島市長  
森 博幸

鹿児島市は、豊かな歴史と文化を有し、市街地の間近に波静かな錦江湾や活火山・桜島などの雄大な自然が広がる、世界にも誇れる美しい景観に恵まれています。また、それぞれの地域には、鹿児島の風土・文化に育まれてきた、住民が愛着と誇りを持っている身近な景観もあります。

良好な景観は、地域の自然、歴史、文化、人々の生活、経済活動など様々な要因が調和して形成されるものです。地域固有の魅力を高め、活力を維持していくためには、市民、事業者、行政が一体となり、地域社会共有の財産として、良好な景観を守り、創り、育していく必要があります。

この鹿児島市景観まちづくり賞は、良好な景観形成に取り組む市民や事業者、地域団体等の活動を賞賛するとともに、都市景観に対する市民の皆様の関心と理解を深め、魅力ある景観まちづくりを促進することを目的として、過去10回実施してきた鹿児島市建築文化賞を発展させ、創設したものです。

今回、その第1回の実施にあたり募集を行いましたところ、建築部門43件、景観部門5件の応募をいただき、厳正な審査の結果、建築部門3件、景観部門3件を選出いたしました。

受賞された皆様方には、心からお祝い申し上げます。皆様方の建築物や活動により創られた景観が、地域の魅力として広く市民の方々から愛され、そして、他の景観まちづくり活動の道標となるものと期待しております。

ところで、平成23年3月の九州新幹線全線開業により、東北新幹線の全線開業とあわせて鹿児島から青森まで高速鉄道で一つに結ばれることとなります。

このことにより、活発な交流に期待が高まる反面、都市間競争のさらなる激化が予想されることから、これまで以上に鹿児島のオリジナリティを活かしたまちづくりに取り組むとともに、景観も含めた鹿児島の多彩な魅力をより一層アピールしていく必要があります。

本市では、平成20年6月に施行した景観計画及び条例に基づき、地域性と独自性を活かした、実効性のある景観施策に取り組んでおります。

今後におきましても、これまでの取り組みのさらなる充実に努めるとともに、本市の持つポテンシャルを最大限に活かしながら、新たな時代を見据えた施策にも積極果敢に挑戦し、「人とみどりが輝くまち・かごしま」の創造に向け、さらに努力してまいりたいと考えております。

市民の皆様にも、鹿児島らしさのある良好な景観づくりに、積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、審査会の委員の皆様をはじめ、本賞の運営にご支援、ご協力を賜りました方々、そして今回ご応募いただきました皆様方に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。



## 審査にあたって

第1回鹿児島市景観まちづくり賞審査会  
委員長門内 輝行  
京都大学大学院教授

「鹿児島市景観まちづくり賞」は、平成2年から10回、約20年にわたって実施された「鹿児島市建築文化賞」を継承・発展させて、本年度創設された表彰制度です。過去の建築文化賞の受賞作品を見ますと、設計の質が相当高い水準に達しており、この賞が地域の建築文化の向上に貢献してきたことがよく分かります。こうした建築文化賞の実績を踏まえて、景観・環境・文化の調和を重視する21世紀に相応しい鹿児島市の良好な景観の形成を目指して、建築部門に加えて景観部門を設置し、新たに「景観まちづくり賞」がスタートすることになりましたが、その審査会の委員長を務めさせていただき、大変光栄なことと存じております。

さて、第1回景観まちづくり賞の審査は、10月29日～31日の3日間にわたって実施しました。前日まで台風の直撃が懸念されたのですが、幸い天候にも恵まれ、現地審査を含めて順調に審査が進み、表彰対象となる作品・活動を無事選定することができました。

応募件数は、建築部門43件、景観部門5件であり、数の上では必ずしも多くはなかったのですが、質の高い作品・活動が集まったと思います。今回の審査を通じて実感したことは、「景観」の概念を深化させる必要性があるということでした。せっかく創意溢れる建築空間を設計しながら、周辺環境への配慮が欠けている事例、あるいは生活からじみ出てくる内面的な景観の魅力に気づいていない事例なども見受けられたからです。

「景観とは何か」を問うことは、私たちが創り出す人工物(建築物、広告物、道路、緑地など)を孤立したものとして見るのではなく、他の人工物、自然環境、社会文化環境などと関連づけて眺めることを意味しています。景観の視点から考えると、鹿児島の建築には、周辺の建築、雄大な桜島への眺め、鹿児島の風土や歴史などとの調和が求められます。景観を形成するためには、設計という営みを事物の設計から関係の設計へと大きく拡張する必要があるのです。

景観まちづくり賞の審査では、賞に値する作品・活動を選ぶわけですが、同時に選ぶ側の眼差しや価値観が問われているのだと思います。具体的な評価は個別に述べさせていただきますが、現地審査を含む審査の過程で、鹿児島の景観・環境・文化について多くを学ぶ機会が得られたことは大きな喜びでした。こうした「鹿児島市景観まちづくり賞」の取組を通して、市民の皆様と共に鹿児島らしい優れた建築・景観文化を育てていくことに貢献したいと考えています。

## 【建築部門】

## 薬師堂の家



建物全景(正面)



道路から玄関アプローチを臨む

県道から少し入った閑静な住宅地に建つ専用住宅である。内部空間と外部空間のいずれにおいても、バランスのとれた洗練された設計が施されており、質の高い建築作品といえる。

2階に張り出した大きく深い庇と細やかな縦格子は、鹿児島の厳しい日差しや桜島の降灰から日常生活を守り、プライバシーを保護しつつ、外観にも豊かな表情を与えていた。特に鹿児島では降灰を避けるために、駐車場や物干し場を内部に確保することが求められるが、閉鎖性を感じさせない外観となっている。また、道路脇の樹木、スロープ、タイル張りの柱などから構成されるアプローチ空間の巧みさが、内と外とを適度な距離感で区切りながら、この住宅を周囲の街並みに溶け込ませる役割を果たしている。

住宅内部は中庭を中心に構成されており、家族が相互につながり合い、お互いの存在を感じることができるように工夫されている。リビング南側の降灰や雨を防ぐ庇は、強化ガラスで作られており、中庭からの採光装置としてさらに2階のベランダとしても機能している。

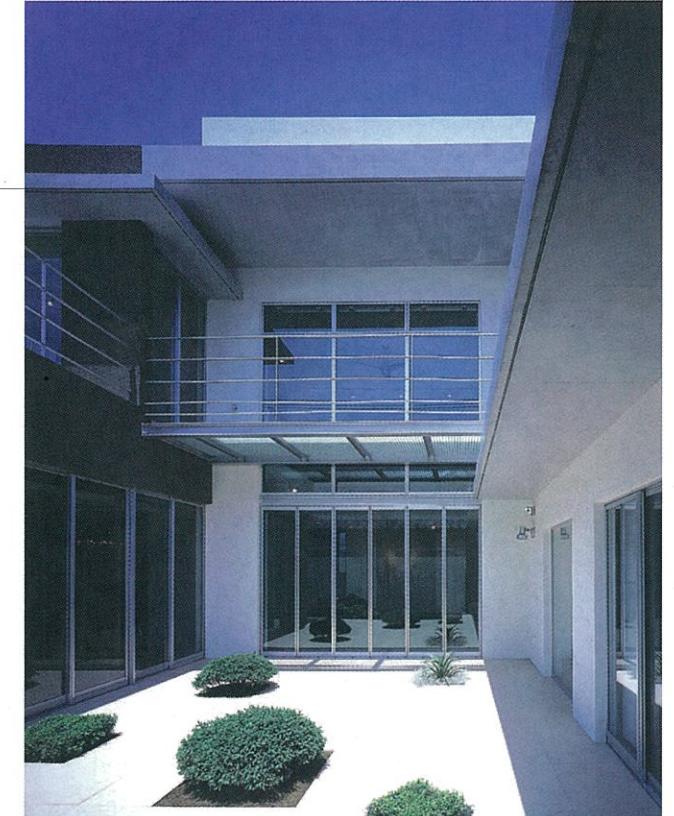
昨今の都市型住宅では、周辺の環境条件の悪化やセキュリティへの不安もあって、外から見て誰が住んでいるかも分からないような閉鎖的な空間構成がとられることが多い中で、それとなく内部の様子が分かる比較的開放的な外観を構成することにより、周囲の街並みとの連続性を確保し、景観形成に貢献している点は高く評価できる。



バリアフリーのスロープ



開放感のある吹き抜けのリビング



各部屋へと続く中庭

## 受賞者の声

## 「薬師堂の家」

住宅作品での受賞に大変嬉しく思います。よきクライアントに恵まれ、良質な施工があって初めて初めて住宅は建築足ります。今回の仕事に携わった全ての方々の技術と誠意が形になり建築となり、そういう建築がいい街並みを形作っていくものだと思います。

株式会社小森昌章建築設計事務所  
代表取締役 小森 昌章

- 用 途／専用住宅(車庫付)
- 所在地／東谷山3丁目
- 所有者／個人
- 設計者／株式会社小森昌章建築設計事務所
- 施工者／株式会社 新生組
- 構造等／鉄筋コンクリート造 2階建

## 景観まちづくり賞

2010 The Best of Kagoshima Landscape and Architecture Award

## 【建築部門】

東宝アルバビル  
リッチモンドホテル鹿児島天文館

- 用 途／ホテル
- 所在地／千日町14-1
- 所有者／萬活土地起業株式会社
- 設計者／竹中工務店 九州一級建築士事務所
- 施工者／竹中工務店 九州支店
- 構造等／鉄筋コンクリート造 11階建



ホテル全景



通りからロビーへ続くコリドール



間接照明を多用した落ち着いたロビー

都心部に建つビジネスホテルであるが、狭小地であるにも関わらず、密度ある空間と開放感を創り出すことに成功している。周辺はパチンコ店やゲームセンターといった個性の強い建築群が並び、そのエリアの中に空が見える空地を提供し、アーケードの雰囲気を一新している。

景観形成の観点からみると、天空率を使った斜線制限緩和の制度を活用して生まれたセットバック部分を緩衝空間として組織することにより、街と建物との新たな関係のあり方を提案している点が高く評価される。前庭・アプローチ空間は、人々にはっと一息つくことができる空地を提供し、格子とシマトネリコが見え隠れする路地空間は、ロビーに開放感をもたらしている。

この建物のもう一つの特徴は、鹿児島の「黒」という伝統色をアーケード面のファサード、大庇、低層部分、インテリアなど、至る所にちりばめていることである。黒色は概ね好意的に受け止められたが、アーケード側については街並みとの関連でもう少しきめ細やかな配慮があつても良かったのではないかと思われる。また、春になると赤褐色の新芽がふくチャンチンの木は、ホテルの視認性と季節感を持ち込む重要な要素であるため、継続的なメンテナンスが求められる。

こうしたミクロな創意工夫の連鎖が都市景観に質的变化をもたらすはずであり、その意味でこの提案は景観まちづくりの小さな一步ではあるが大きな可能性を秘めた試みといえる。

## 受賞者の声

「東宝アルバビル リッチモンドホテル  
鹿児島天文館」

鹿児島天文館のアーケード街に建つホテルの存在として「開かれた」建築であることが重要であると考え、開放と閉鎖を慎重にデザインし、都心の狭小地にありながら奥行きと落ち着きのあるホテルを実現しています。前面に設けたさやかな広場が都市との接点となり、この天文館アーケードに新たな息吹を与えています。

竹中工務店九州一級建築士事務所

## 【建築部門】

STEP

- 用途／共同住宅
- 所在地／松原町11-7
- 所有者／田代隆宏
- 設計者／サウルス建築設計事務所
- 施工者／株式会社 前屋敷組
- 構造等／鉄筋コンクリート造 7階建



エントランスよりメゾネットへ続く階段



道路からファサードを臨む



ガラスブロックを多用した壁で明るいキッチンダイニング



リビングから緑化されたベランダを臨む



## 受賞者の声

## 「STEP」

この建築はクライアントのご理解のもと、多くの時間を掛け、じっくりと設計させていただきました。しっかり考えて創ったこの建築が第1回鹿児島市景観まちづくり賞を受賞できましたこと、大変光栄に思います。この賞の創設が、これから鹿児島市のまちづくりや建築文化の発展に大きく寄与するとともに、しっかりと考えて創られた建築が増え、鹿児島の街の魅力なることを心から願っています。

サウルス建築設計事務所  
宇都 博徳

繁華街に近い場所に建つ集合住宅である。裏通りの様相を見せる街並みに対して、閉鎖的な空間にするのではなく、街路側のファサードは大きな開口部からなる端正な外観とし、側面にも半戸外の共用廊下を貫通させ、都市に対して開放的な景観を構成している。

内部空間の構成はきわめて巧妙である。賃貸住戸はフラット、メゾネット、スキッププランの組み合わせで構成され、2階と4階の共用廊下からアクセスする方式となっている。6~7階には所有者の住戸がある。街路面は、3~5階が1.5階分の高さをもつ吹抜空間2層となっており、6~7階が1層に見えるため、7階建の建物が外観上は5層に見える個性的な構成となっている。

若い世代を対象とした賃貸住宅であるが、質の高い建築に手頃な家賃で入居できるよう工夫されている点は評価できる。しかし、居住者同士のコミュニケーションや地域コミュニティとのつながりがあまり感じられない点についてはもう少し工夫があつてもよかつたと思われる。また、1階の自動販売機についても、色彩や設置の仕方について配慮が望まれる。

最上部に所有者が居住している点は都市型住居として重要である。所有者が地域コミュニティの中に継続的に居住している場合、良好な住環境マネジメントが持続的に行われる可能性が高いからである。今後のコミュニティ形成や景観づくりに期待したい。

## 【景観部門】

## 大原地区フラワーロード



環境美化運動を通じた地域住民のふれあい

かつて大原台地には桜の巨木が30本ほど並び、草原には季節の草花が咲き乱れていたが、いずれもその後の地域開発でいつしか消えてしまった。消えゆく美しい環境をよみがえらせ、花と緑がいっぱいの住環境にしようと4集落の住民が話し合い、平成16年から公民館連絡協議会を母体として、手作りの「花いっぱい運動」に取り組んできた。具体的には、大原バス停付近の150mに及ぶ県道沿いの空き地に、花木2500本を植え、「大原フラワーロード」と命名し、以来6年半にわたって会員の全体活動として維持管理を行ってきたのである。

この環境美化運動は、公民館、子ども会、老人会等が参加していることから、町内や世代を超えた住民のふれあいの場となっているが、現在では旧住民30%に対し、新住民が70%に達していることもあって、旧住民と新住民の交流の場としても重要な役割を果たしている。

現地を訪ねてみると、驚くほど美しい緑化の花壇が形成されているが、地元の園芸業者である(株)川崎緑化センターが、花壇の設計をはじめ、育成・手入れの技術的な助言を行っているのである。実はこの業者も公民館連絡協議会の正会員であり、住民活動の重要な担い手なのである。

以上のように、大原地区フラワーロードづくりは、地域住民の人間関係やコミュニティの形成にも大きな役割を果たしており、優れた景観まちづくり活動として高く評価できる。



- 所 在 地／本名町7934番地イ先
- 活動団体名／大原地区公民館連絡協議会
- 活 動 内 容／県道沿いの花壇の整備、維持管理
  - ・幹線道路の緑化
  - ・路側帯の空き地150mの花だん等の苗植え
  - ・草取り、水やり、清掃



苗植え作業



大原バス停付近の景観



## 受賞者の声

## 「大原地区フラワーロード」

「自分たちで計画し、設置した緑化の花壇」として、大原地区公民館連絡協議会の4集落で責任を持って維持管理しようということで、かねてから地道に努力してきた。手入れ作業を進める中で、地域住民の連帯感が生まれてきたのも大きな成果であった。今回の受賞を機に更に「花の咲く大原台地」の充実に向けて会員結束し努力していきたい。

大原地区公民館連絡協議会

会長 藤崎 久己



美しい緑化の花壇



草取り作業

【景觀部門】

# 八重の棚田



市景観写真コンテスト入賞作品 石垣のある八重の棚田(堀之内誠氏撮影)

■所 在 地／郡山町八重  
■活動団体名／八重地区棚田保全委員会

#### ■活動内容／棚田の保全と都市農村交流による地域

■活動する個人の個性の尊重と都市農村交流による地域活性化  
八重山の山腹に広がる約240haから

- ・八重山の山腹に広がる約240枚からなる石積みの棚田の維持保全
  - ・棚田を生かした農作業体験を通じ、都市部住民と地域住民との交流
  - ・スイセンロードの整備

八重山の山腹の急傾斜地に広がる、広さ12.4ha、約240枚からなる石積みの棚田である。遠くには桜島や錦江湾を望める素晴らしい景観である。

現地審査では、稲刈り後の田んぼの野焼きによる煙がたなびく情景を見ることができたが、眼前の棚田からは、田植え前の水が張られた情景、稲が生育した緑の草原の情景、稲穂が実り一面黄金色になった情景などが目に浮かぶ。他にも、菜の花やレンゲといった景観作物も作付され、道路沿いに水仙も植えられ、訪れる人の目を楽しませるための様々な工夫が施されている。

現在、地元の農家約35軒を中心に、「八重地区棚田保全委員会」が組織され、美しい棚田を維持保全する活動を展開している。具体的には、会員相互の緊密な連携のもと、平成14年度から棚田を活かした農作業体験を実施し、都市住民との交流を深め、平成19年度からは棚田オーナー制度を導入し、都市住民との共同による農地の保全と地域の活性化に取り組んでいる。これらの住民活動も、美しい棚田の景観とともに高く評価されるべきものである。

現実には、農作業の担い手の高齢化・後継者問題は深刻であり、行政の支援があるとはいえ、棚田の維持保全には厳しいものがあると思われるが、棚田の多面的機能の良好な発揮と集落の活性化を図る方策は色々考えられるはずである。八重の棚田の景観が市民共有の財産として持続的に維持保全されていくことを願ってやまない。



棚田の雪景色

受賞者の声

「八重の棚田」

このすばらしい石積みの棚田の景観をなんとか後世に残したいという思いで、八重地区総員で農地保全と都市農村交流、景観対策に取り組んできました。棚田を活かした農業体験や棚田オーナー制度など、楽しいグリーンツーリズム体験もできますので、多くの方々には是非ご参加いただきたいと思います。

八重地区棚田保全委員会  
会長 桑原 盛男



市景観写真コンテスト入賞作品 棚田秋景(大社正照氏撮影)



田植え体験



稻刈り体験



收穫祭

## 【景観部門】

## マルヤガーデンズ

■所 在 地／吳服町6番5号

■活動団体名／株式会社 丸屋本社

■活 動 内 容／商業施設の再生、壁面緑化、屋上緑化

- ・商業施設の改修工事におけるメインファサードの壁面緑化、屋上緑化
- ・コミュニティスペース「ガーデン」の設置、運営



ソラニワ



三越鹿児島店の撤退による中心市街地の空洞化が懸念されていた「いづろ・天文館地区」において、地区的活性化と回遊性を維持するために、商業施設として再生を図った施設である。

「ユナイトメント」(unitement=すべてをつなぐ)をコンセプトに、多くのコミュニティスペースを設けてコミュニティを取り込み、百貨店のようでありながらも出会いや交流のある「買い物集会所」を目指した施設である。壁面緑化と屋上緑化は、成長していく緑のように、この施設が「みんなが自然と集まれる場所」に育つことを願うシンボルである。

ファサードの緑化については、今夏の酷暑の影響で決して計画通りに進んではいないため、今回の受賞に対し疑問を持たれる方もおられるかもしれない。しかし、景観は外觀にとどまらず、建物、店舗、ギャラリー、緑などの空間・事物とそこに集う人間とが織りなす生活のドラマから生まれるものであり、様々なスペースで繰り広げられるコミュニティ活動を通じて人々の心に浮かび上がるのも、マルヤガーデンズの大切な景観なのである。

この施設は本年4月に開業したばかりで、評価が分かれたが、都市景観と地域コミュニティを同時に形成しようとする若い世代の意欲的な取組を景観まちづくりに新風を吹き込む試みとして高く評価した次第である。大切なことは、新しい景観を将来にわたって育てていくことである。緑化についても、持続的にしっかりと取り組んでいただきたい。



ソラニワライブ



ダンボールハウスのワークショップ



マルヤデザイントーク



サンデーマーケット



**受賞者の声**  
「マルヤガーデンズ」  
商業施設の再生を通してまちづくりに寄与したいという思いを評価戴き嬉しい。今後も外壁や屋上の緑の成長とともに地域コミュニティとの連携を深めながら施設の完成度を高め、市民の皆様に愛される施設となりたい。  
株式会社丸屋本社  
代表取締役社長 玉川 恵

## 【その他の二次審査対象と景観まちづくり賞のあり方について】

## ●その他の二次審査対象

建築部門43件、景観部門5件の応募のうち、二次審査の対象とした作品・活動は、建築部門9件、景観部門3件であった。景観部門の3件はすべて受賞することになったので、ここでは建築部門で惜しくも受賞とならなかつた作品について、二次審査の主な内容をお伝えする。

「かぎん文書管理センター」は、市景観計画で景観形成重点地区候補地の一つになっている住吉町石造倉庫群地区に建つ鹿児島銀行の文書保管倉庫である。素材や色彩を工夫して周辺の石造り倉庫群との調和を図っている点、外断熱とし省エネに配慮している点など、優れた提案が含まれているが、石造倉庫の切妻屋根との形態上の不適合、石造倉庫の高さや容積とのスケールギャップといった景観上の課題に応えていないとの意見が多かった。

「南国センタービル」は、2011年の九州新幹線全線開業に向け、鹿児島の玄関口として変貌しつつある鹿児島中央駅の大きな景観形成の一翼を担うべく設計された高層建築である。広い無柱空間を確保する平面計画、鹿児島の地域性を考えた環境計画、街並みに配慮した

低層部の計画など、質の高い設計が行われていた。都市景観との関連では、鹿児島中央駅前広場を形成する重要な建物である点、建物の歩道側通路を公共空間として開放し、歩行者やバス停で待つ人々の利便に供している点などを高く評価して、景観まちづくり賞に相応しい作品として強く推す声も少なくなかった。現在、隣接する11番街区に新しい高層建築の建設が始まっていますが、双方とも完成した後の駅前広場には、新たな都市景観が姿を現すはずである。その段階に期待し、改めて評価したいとのことで、今回は受賞に至らなかった。

「CoCo-House」は、典型的な新興住宅地に建つ敷地面積約30坪、建築面積18坪の狭小住宅であるが、空間に斜めの軸を導入して視覚的広がりを確保し、そこにトップライトからの光を導入し、さらにその周りに個々の要求をきめ細かく満足する空間を配置することにより、密度の高い住空間を実現することに成功している。若い建築家の意欲的な設計として好感が持たれたが、住宅の設計としてこなれていない部分があり、また空間全体が閉鎖的で、街並みへの貢献が少ないこともあります。

## かぎん文書管理センター

- 用 途／事務所付倉庫
- 所在地／住吉町
- 建築主／鹿児島 共同倉庫（株）
- 設計者／（株）メディックアンドアーキテクツ
- 施工者／植村組JV

## CoCo-House

- 用 途／専用住宅（車庫付）
- 所在地／原良三丁目
- 建築主／個人
- 設計者／MANA..建築設計事務所
- 施工者／飛鳥建設（株）西日本建築支社

## 南国センタービル

- 用 途／事務所、店舗
- 所在地／中央町
- 建築主／南国ビル（株）
- 設計者／（株）三菱地所設計九州支店
- 施工者／（株）大林組九州支店

## 郡山町のアトリエ付二世帯住宅

- 用 途／専用住宅
- 所在地／郡山町
- 建築主／個人
- 設計者／（有）千匠設計
- 施工者／（株）木落建設

今回は受賞作品とはならなかった。

その他に、二次審査を行った対象は、「郡山町のアトリエ付二世帯住宅」「温泉の森」「森三 吉野店」の3作品である。「温泉の森」は精神科のデイケア施設であり、第10回建築文化賞で現地審査を行った質の高い作品であるが、竣工直後で空間と人間とが馴染んでいなかったため、時間が経過した今回再訪したが、特に新しい発見はなかった。また、「郡山町のアトリエ付住宅」は環境共生に配慮し、施主の要求にきめ細かく応えている点、御菴子の店舗「森三 吉野店」は客を誘引する配慮が見られる点が評価されたが、いずれも賞に値する提案が不足していたように思われる。

## ●景観まちづくり賞のあり方について

最後に、第1回景観まちづくり賞の審査を通じて、賞のあり方について感じたこと、あるいは議論があったことを申し添えておきたい。

景観まちづくり賞が創設された背景には、21世紀を迎えて、建築を単体で考えるのではなく、都市・地域・自然との関係性の中で考える時代となり、景観の概念が大きくクローズアップされたことがある。実を言えば、建築部門の前身である建築文化賞は20年前からこの方針を採用しており、景観まちづくり賞の一部門となることで、方向性が一層鮮明になったと言える。

景観部門にはまだ応募件数も少なく、しばらくは応募用紙の書式や評価基準の見直しを含めて、賞自体を進化させていく必要がある。景観形成には、建物と緑の関係や建物相互の関係などに気を配り、住民が協働して少しずつ景観を育していく方法もあれば、マスタートップランに基づいて企業が景観を計画的に開発していく方法もあるように、多様なアプローチがあり得るが、それらを幅広く認めていくことが景観まちづくりの発展に役立つと思うからである。

また、各種メディアを通じて、景観まちづくり賞を市民に周知することも肝要である。受賞した作品・活動を通して、景観まちづくりへの波及効果が生まれることに期待したい。

# 景観まちづくりとは

## 景観とは……

- 景観は、それぞれの地域ごとの歴史、地勢や生態系などの風土、文化や伝統、わたし達一人ひとりの暮らしや経済活動等と、技術の進歩や法律制度等が背景となってつくられるものです。
- 良好的な景観は、地域の個性や特色をわかりやすく特徴づけるものであり、人々の地域に対する愛着やふるさと意識を育みます。
- 身近にある景観の良さは、潤いある魅力的で豊かな生活環境の創出に貢献します。
- 美しく個性的な景観は、観光をはじめ国内や世界各地との交流を活発にする役割を担います。

## 景観まちづくりとは……

- 自分たちのまちの景観を楽しみ、貴重な財産として次世代に残せるように、わがまちの景観を維持・継承・改善するための様々な取り組みが、景観まちづくりです。
- 景観まちづくりは、現在の良好な景観を大切に保全することだけでなく、新たに現代的に美しく魅力的な景観をつくりだすことも含みます。
- 清掃や緑化など、日々の暮らしに根ざした、まちの景観を整えるための地道な活動も、良好な景観まちづくりに貢献しています。



# 第1回 鹿児島市景観まちづくり賞

## 1.目的

景観まちづくり賞は、良好な景観形成に寄与している建築物や、市民等の活動により保全されている景観の良好な街並み、田園、海岸、緑地、景観形成に貢献する市民等の活動を表彰し、これらを広く紹介することにより、景観に対する市民や事業者の関心を高め、魅力的な景観のあるまちづくりを進めることを目的として実施します。

## 2.募集期間

平成22年6月24日(木)～7月30日(金)

## 3.募集対象

### 【建築部門】

市内にあり、美しい街並みと豊かな都市環境に寄与し、街に潤いと魅力を与えていた民間建築物で、平成12年4月1日から平成22年7月30日までに建築基準法による検査済証の交付を受けたもの

### 【景観部門】

●市内にある景観の良好な街並み、田園、海岸、緑地で、その景観形成に市民、事業者が寄与したもの

●市内で継続的に取り組まれている景観形成に関する活動で、概ね5年以内に地域の魅力ある景観づくりに実績があったもの又は将来的にその効果が期待できるもの

## 4.応募件数

建築部門：43件 景観部門：5件

## 5.審査会

- (1)期間 平成22年10月29日(金)～31日(日)
- (2)審査会委員

委員長 門内 輝行 京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授  
副委員長 井上 佳朗 鹿児島大学法文学部教授  
委員 古川 恵子 鹿児島女子短期大学生活科学科教授  
木方 十根 鹿児島大学大学院理工学研究科准教授  
下原 美保 鹿児島大学教育学部准教授  
東川 美和 NPO法人かごしま探検の会事務局長  
坂田 祐介 鹿児島大学農学部教授



## 6.表彰

建築部門	所有者	賞状及び銘板
	設計者	賞状
	工事施工者	賞状
景観部門	活動団体等	賞状及び賞金10万円





— 発行 —

平成22年12月

鹿児島市建設局都市計画部都市景観課

〒892-8677 鹿児島市山下町11-1

TEL.099-216-1425

<http://www.city.kagoshima.lg.jp>